

一宮町の指定文化財



発行日：令和3年(2021)3月

編集・発行：一宮町教育委員会

一宮町の歴史

一宮町は平安時代頃に成立した上総国一之宮・玉前神社を中心に発展してきました。古くから多くの信仰を集めた玉前神社は、一宮町の町名の由来でもあり、今でも一宮町のシンボリック的存在です。

現在の一宮町域には江戸時代、いちのみや ほん ごう一宮本郷村、あら おい新笈村、とら み東浪見村、つな だ綱田村、みや ばら宮原村、せん どうきゆう船頭給村、あら ち新地村があり、合併や編入により昭和 30 年 (1955) に現在の一宮町が誕生しました。

各地域で生まれ、守られてきた歴史や文化遺産は、今のわたしたちに多くのことを伝えていています。古くから栄えた寺社仏閣、伝承されてきた祭りや民俗芸能、豊かな自然、歴史的建造物などなど。魅力あふれる郷土の歴史の一端を知る文化財の数々が、豊かな一宮町の歴史を物語っています。

目次

一宮町の歴史	P1
一宮町の指定文化財一覧表	P2
一宮町の指定文化財	P4
番外編「釣ヶ崎海岸」「風船爆弾打ち上げ基地跡」	P19
一宮町の文化財所在地	P20
「東の大磯」一宮～別荘マップ～	P21
一宮町の略年表	P23

文化財を見学される方へ

- 文化財は貴重でかけがえのない、わたしたちの宝物です。許可なく触れたり、動かしたり、所有者の迷惑にならないよう見学してください。また、拓本等は所有者の許可を得てから行ってください。
- 文化財の中には非公開のものや期間を限定して公開する場合がありますので、ご注意ください。
- 文化財を傷つけたり、落書きをしないでください。
- 周辺の動植物を無断で採取したり、傷つけたりしないでください。
- 文化財の周辺には、足場の悪い場所もありますので、履きなれた靴や動きやすい服装でお出かけください。

一宮町の指定文化財一覧表

	No.	文化財名	指定年月日	種別	所有者	備考
国指定	1	梅樹双雀鏡 <small>ばいじゅ そうじやくきやう</small>	昭和28年11月14日	有形文化財(工芸品)	玉前神社	千葉県立中央博物館大多喜城分館に寄託中
国登録	1	芥川荘 <small>あくたがわ そう</small>	平成13年10月12日	有形文化財(建造物)	一宮館	
	2	高原家住宅店蔵 <small>たかほら けじゆうたく みせぐら</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	3	旧秋場家住宅主屋 <small>きゅうあき ば けじゆうたく しゅおく</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	4	旧秋場家住宅土蔵 <small>きゅうあき ば けじゆうたく どぞう</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	5	旧秋場家住宅長屋門 <small>きゅうあき ば けじゆうたく ながもん</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	6	旧斎藤家住宅主屋 <small>きゅうさいとう けじゆうたく しゅおく</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	7	旧斎藤家住宅店蔵 <small>きゅうさいとう けじゆうたく みせぐら</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	8	旧斎藤家住宅土蔵 <small>きゅうさいとう けじゆうたく どぞう</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
	9	旧斎藤家住宅稲荷社 <small>きゅうさいとう けじゆうたく いなりしゃ</small>	平成29年6月28日	有形文化財(建造物)	個人	
県指定	1	木造軍荼利明王立像 <small>もくぞうぐん だりみょうおうりゆうぞう</small>	昭和33年4月23日	有形文化財	東浪見寺	
	2	木造十一面観音菩薩立像 <small>もくぞうじゅういちめん かんおん ぼ ざつりゆうぞう</small>	平成15年3月28日	有形文化財	観明寺	
	3	玉前神社社殿附棟札 <small>たまさき じん じゃ しや でんつきたりむね ぶだ</small>	平成8年3月22日	有形文化財(建造物)	玉前神社	棟札は千葉県立中央博物館大多喜城分館に寄託中
	4	玉前神社神楽 <small>たまさき じん じゃ かぐら</small>	昭和33年4月23日	無形民俗文化財	上総神楽保存会	
	5	東浪見甚句 <small>とうらみ じんく</small>	昭和40年4月27日	無形民俗文化財	東浪見甚句保存会	
	6	上総十二社祭り <small>かずさ じゅうに しやまつ</small>	平成15年3月28日	無形民俗文化財	上総十二社祭り保存会	
	7	軍荼利山植物群落 <small>ぐん だり さんしよく ぶつぐん らく</small>	昭和32年1月17日	天然記念物	東浪見寺	
町指定	1	上総とんび <small>かずさ</small>	昭和50年4月28日	無形民俗文化財	個人	
	2	船頭給獅子舞 <small>せん どうきゆうし し まい</small>	昭和50年4月28日	無形民俗文化財	船頭給青年団	
	3	地曳網漁 <small>じ ひき あみりょう</small>	平成24年3月30日	無形民俗文化財	地曳網保存会	
	4	諏訪神社の紙細工 <small>すわ じん じゃ かみざい く</small>	昭和56年6月17日	有形民俗文化財	諏訪神社	
	5	加納久宜公の墓 <small>か のう ひさよし こう ほか</small>	昭和50年4月28日	記念物史跡	一宮町	
	6	洞庭湖記念碑 <small>どうてい こきねん ひ</small>	昭和56年6月17日	記念物史跡	一宮町	
	7	延宝の津波供養塔 <small>えん ぽう つ なみ く しょうとう</small>	昭和56年6月17日	記念物史跡	新熊区	
	8	貝殻塚貝塚 <small>かい がら づか かい づか</small>	昭和53年3月21日	記念物史跡	個人	
	9	高藤山城址と古蹟の碑 <small>たかとう ざんじょうし こせき ひ</small>	昭和53年3月21日	記念物史跡	個人、一宮町	
	10	一宮藩台場跡 <small>いちのみや はん たい ば あと</small>	昭和53年3月21日	記念物史跡	一宮町	平成30年8月20日「加納藩台場跡」より名称変更
	11	芭蕉句碑 <small>ばしやう く ひ</small>	平成4年1月14日	記念物史跡	玉前神社	
	12	加納公紀徳の碑 <small>か のう こう きとく ひ</small>	平成2年9月11日	記念物史跡	一宮町	
	13	一宮城址 <small>いちのみやじょうし</small>	昭和62年3月25日	記念物史跡	個人、一宮町	

一宮町の指定文化財一覧表

No.	文化財名	指定年月日	種別	所有者	備考
14	水神社の大公孫樹	昭和52年10月28日	天然記念物	水神社	
15	イヌマキの群生	昭和62年7月14日	天然記念物	玉前神社	
16	遍照寺のイヌマキ	平成30年11月12日	天然記念物	遍照寺	
17	正木時通制札	昭和52年10月28日	有形文化財(古文書)	観明寺	
18	里見義頼寄進状	昭和52年10月28日	有形文化財(古文書)	玉前神社	千葉県立中央博物館大多喜城分館に寄託中
19	豊臣秀吉禁制	昭和52年10月28日	有形文化財(古文書)	観明寺	
20	船頭給村宗門人別書上控帳	昭和63年12月23日	有形文化財(古文書)	個人	
21	岩沼高浜方塩浜置場帳写	昭和63年12月23日	有形文化財(古文書)	個人	
22	地曳網豊漁安全祈願御名前帳	昭和61年12月12日	有形文化財(古文書)	南宮神社	
23	松喰鶴鏡	昭和52年10月28日	有形文化財(工芸品)	玉前神社	千葉県立中央博物館大多喜城分館に寄託中
24	蓬菜鏡	昭和52年10月28日	有形文化財(工芸品)	玉前神社	千葉県立中央博物館大多喜城分館に寄託中
25	萌黄緞胴丸	昭和56年6月17日	有形文化財(工芸品)	玉前神社	千葉県立中央博物館大多喜城分館に寄託中
26	北沢楽天の絵馬	平成15年2月10日	有形文化財(工芸品)	南宮神社	
27	観明寺四脚門	昭和52年10月28日	有形文化財(建造物)	観明寺	
28	観明寺水屋	昭和62年7月14日	有形文化財(建造物)	観明寺	
29	観明寺金毘羅堂	平成19年12月11日	有形文化財(建造物)	観明寺	
30	東浪見寺本堂	平成19年12月11日	有形文化財(建造物)	東浪見寺	
31	万国地球輿地図	昭和59年9月21日	有形文化財(絵画)	個人	
32	釈迦涅槃図	昭和60年2月15日	有形文化財(絵画)	観明寺	
33	船頭給村土地利用図	昭和62年3月25日	有形文化財(絵画)	個人	
34	紙本着色俵薬師縁起絵	平成8年4月10日	有形文化財(絵画)	東福寺	
35	銅造阿弥陀如来立像	昭和58年11月30日	有形文化財(彫刻)	善光寺	
36	銅造地藏菩薩坐像	昭和59年9月21日	有形文化財(彫刻)	観明寺	
37	観明寺地獄極楽欄間	昭和59年9月21日	有形文化財(彫刻)	観明寺	
38	田中家の仏壇	昭和59年9月21日	有形文化財(彫刻)	個人	
39	石造庚申塔	昭和60年2月15日	有形文化財(彫刻)	観明寺	
40	欄間彫刻・置物	昭和60年3月29日	有形文化財(彫刻)	個人	
41	木造十一面観音立像	平成16年2月10日	有形文化財(彫刻)	観明寺	
42	木造不動明王坐像	平成16年2月10日	有形文化財(彫刻)	観明寺	
43	一宮城出土遺物	平成17年2月8日	有形文化財(考古資料)	一宮町	
44	待山遺跡出土遺物	令和元年7月17日	有形文化財(考古資料)	一宮町	

町指定

国指定重要文化財

① 梅樹双雀鏡



玉前神社に伝わる神聖な鏡で直径約 20cm、厚さ 3.5mm、白銅製の鏡で鎌倉時代のものです。鏡の名称は裏面（模様のある面）に刻まれた、梅の木と 2 羽の雀に由来しています。

縁に穴が 2 個あることから、かつて神前に懸けられていたと考えられます。

【非公開】

国登録有形文化財

① 芥川荘



一宮川河口に位置する旅館・一宮館の離れで、大正 5 年 (1916) 8 月から 9 月にかけて文人・芥川龍之介が友人の久米正雄と滞在したことに因んで、「芥川荘」と名付けられました。

明治 30 年 (1897) 代の建築で木造平屋建・茅葺屋根の建物が、当時のまま保存されています。

※要事前連絡（一宮館 0475-42-2127）

【住所】一宮町一宮 9241

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 30 分

国登録有形文化財

② 高原家住宅店蔵



高原家は玉前神社の社家の一つと伝えられ、屋号は「にんべん」でした。かつては食用油の販売や鶏卵の卸売などの商売をしていたといえます。

建物は土蔵造 2 階建、切妻造平入で明治時代後期頃の建築とみられます。現在は貸し出され、かき氷店として利用されています。

【住所】一宮町一宮 3030

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 7 分

国登録有形文化財

③ 旧秋場家住宅主屋



秋場家は江戸時代末期から造り酒屋を営んでいた旧家で、かつては網元をつとめていた家です。

建物は木造 2 階建の寄棟造で、棟札から明治 33 年 (1900) の建築ということがわかっています。

現在はレンタルスペースとして活用されています。

【住所】一宮町東浪見 1611

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約 1 分

4 旧秋場家住宅土蔵



秋場家は江戸時代末期から造り酒屋を営んでいた旧家で、かつては網元をつとめていた家です。

土蔵は2階建の切妻造で、棟札から建築年代は旧秋場家住宅の中で最も古い、天保13年(1842)であることが分かっています。

【住所】一宮町東浪見 1611

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約1分

5 旧秋場家住宅長屋門



秋場家は江戸時代末期から造り酒屋を営んでいた旧家で、かつては網元をつとめていた家です。

長屋門は旧秋場家の南面に位置し、茅葺屋根の寄棟造です。建築年代は不明ですが、部材の加工跡などから明治時代前期頃とみられます。

【住所】一宮町東浪見 1611

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約1分

6 旧斎藤家住宅主屋



斎藤家は明治時代以降、鯉節を中心とする海産物問屋を営んでいました。

主屋は店蔵の背面に連結しており、南面に玄関、八畳の茶の間、十畳の中の間、十畳の奥の間が並びます。建築年代は明治30年(1900)頃とみられています。

【住所】一宮町一宮 2987-1

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約5分

7 旧斎藤家住宅店蔵



斎藤家は明治時代以降、鯉節を中心とする海産物問屋を営んでいました。

店蔵は国道128号に面しており、土蔵造2階建の切妻造平入です。主屋と連結しており、建築年代も主屋と同じ明治30年(1900)頃とみられています。

現在はカフェとして利用されています。

【住所】一宮町一宮 2987-1

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約5分

⑧ 旧齋藤家住宅土蔵

齋藤家は明治時代以降、鰹節を中心とする海産物問屋を営んでいました。

土蔵は旧齋藤家の北東に建ち、建築年代は主屋と同じ明治30年(1900)頃とみられます。

現在は外壁の劣化が激しいため、トタンで覆われています。



【住所】一宮町一宮 2987-1

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約5分

⑨ 旧齋藤家住宅稲荷社

齋藤家は明治時代以降、鰹節を中心とする海産物問屋を営んでいました。

稲荷社は旧齋藤家の北東に建つ一間社流造で各所に彫刻が施されています。向拝の龍の彫刻は刻印があり、現在のいすみ市に住んでいた長谷川三之輔の作であることがわかります。



【住所】一宮町一宮 2987-1

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約5分

① 木造軍荼利明王立像

軍荼利明王は五大明王の一つで、もとの姿は一面八臂(いちめんはっぴ、1つの顔と8本の腕)でしたが、明治初年の廃仏毀釈の影響で、現在は腕前の二臂だけが残っています。東浪見寺の本尊で、像高204cm、カヤ材の一木造りで、平安時代末期から鎌倉時代初期の作と考えられます。



【通常非公開、年に1度1月28日の軍荼利祭にてご開帳】

② 木造十一面観音立像

総高151cmのカヤ材の寄木造りの像です。表面は錆地塗り、体は金泥塗り、衣服の部分には漆箔がほどこされています。十一面観音は通常、二臂(2本の腕)ですが、本像は珍しい四臂となっています。

像内部の墨書銘から、製作年代は弘長3年(1263)で、鎌倉時代中期に房総で活躍した仏師・蓮上の作であることがわかっています。



【通常非公開】

③ 玉前神社社殿附棟札

たま さき じん じゃ しゃ でん つけたり むな ふだ



玉前神社は「延喜式神名帳」(延長5年(927)にまとめられた全国の神社一覧)にみえる古社で、祭神は玉依姫命(たまよりひめのみこと)です。上総国一之宮の格式を持ち、武家や豪族、庶民の信仰を集めました。戦国時代の戦火で焼け落ち、現在の社殿は貞享4年(1687)に建築されました。

【住所】一宮町一宮 3048

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約8分

④ 玉前神社神楽(上総神楽)

たま さき じん じゃ かぐら かずさ かぐら



宝永7年(1710)に神楽殿が造営され、神楽を奉納したことに始まるといわれています。土師流の神楽を伝授したと伝えられ、現在は保存会によって16種類の演目が演じられています。

【大晦日~元日、4月13日(春祭)、7月14日(行灯祭)、9月10日(御迎祭)、9月12日(宵祭)、9月13日(上総十二社祭り)、11月1日(太々祭)の年7回、玉前神社の祭礼に合わせて上演】

⑤ 東浪見甚句

とら み じん く



東浪見甚句は古くから伝わる民謡の一つで、かつては地曳網漁の大漁祝いの席で、海の安全と次の大漁を祝って歌われていました。昭和38年(1963)に保存会が作られ、現在も歌と踊りが伝えられています。

【さすが市等で上演】

【石碑住所】一宮町東浪見 60・1 付近

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約22分

⑥ 上総十二社祭り

かずさ じゅう に しゃ まつ



玉前神社の例祭で、毎年9月13日に行われます。大同2年(807)に始まったと伝えられ、神輿を担ぐ姿が裸に近いことから「裸祭」の名称で親しまれています。当日は玉前神社の玉依姫(たまよりひめ)が上陸したと伝えられる釣ヶ崎の祭典場に玉依姫の一族を祀る周辺神社から神輿が集まります。ご神霊を乗せた神馬(かんのうま)と神輿が釣ヶ崎へ向かって砂浜を走る「シオフミ」の姿は有名です。

7 軍荼利山植物群落



九十九里平野に面した標高約 75m の丘陵で、気候は温暖で降水量も多く、スダジイを主体とした常緑広葉樹林に覆われています。長年信仰の対象として保護され、県レッドリストの保護生物・ハイハマボスも生息しているほか、暖地性のシダ類が数多く見られます。

【住所】一宮町東浪見 3446

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約 20 分

1 上総とんび



上総とんびは、漁師が大漁の時に着る「万祝（まいわい）」という着物と同じ形の凧で、凧作りは代々嵯峨野家に一子相伝で伝えられています。竹で骨組みを作って和紙を貼り、クジラのひげ（現在は代用品を使用）で「うなり」を作り、独特の音を出します。現在も江戸時代の下絵等が伝わっています。

※図柄は上総とんび独自のものですので写真の転写・複写・複製することは固く禁じます。

2 船頭給獅子舞

元文3年(1738)頃、五穀豊穡、家内安全、悪疫退散の祈禱のために始まったといわれ、現在は青年団が継承しています。

笛太鼓に合わせて踊る2人舞で、江戸神楽の系統といわれています。



【3月第一土曜日の水神社の春祭の際に、「春祈禱」として船頭給区内の各家を回って悪霊を払う】

3 地曳網漁



地曳網漁は陸上を拠点に沖合から網を引き寄せる漁法で、陸に向かって網を引き、魚群を追い込みます。水底で網を引くため、岩のない平坦な水域に限られ、九十九里浜沿岸では江戸時代には盛んに行われました。一宮町では昭和 30 年代まで盛んで、一時期衰退しましたが、現在は保存会が伝統的な漁法を受け継ぎ、活動しています。

【夏に一宮海岸にて観光地曳網を開催】

4 諏訪神社の紙細工



新地地区にある諏訪神社は天正9年(1581)に信濃国諏訪から勧請(かんじょう、分霊をほかの土地で移し祀ること)したといわれ、紙細工は古くから毎年祭礼の宵祭に奉納され、灯りをともして境内に飾られています。紙細工は和紙と糊だけで作られ、様々な風景や建物などを再現します。

【一宮町中央公民館 2階にて展示中(公民館開館日のみ)、7月最終土・日曜日の諏訪神社祭で奉納】

5 加納久宜公の墓



最後の一宮藩主・加納久宜は鹿児島県知事等をつとめ、晩年の明治45年(1912)には一宮町長に就任しました。耕地整理や海水浴場の整備の他農業・観光・教育等様々な分野で活躍し、大正8年(1919)に亡くなりました。この墓は大正11年(1922)に町民有志の手によって分骨され建てられたものです。

【住所】一宮町一宮 3404 付近

【交通アクセス】JR上総一ノ宮駅から徒歩約12分

6 洞庭湖記念碑

洞庭湖は一宮藩主・加納久徴(ひさあきら)が灌漑用に造らせた湖で、広さは面積約6.8ヘクタール、名前は中国の「洞庭湖」に因んで名づけられました。この記念碑は完成を記念して、天保15年(1844)に湖畔に建立されたものです。



【住所】一宮町一宮 6548

【交通アクセス】JR上総一ノ宮駅から徒歩約35分

7 延宝の津波供養塔

延宝5年(1677)10月、房総半島東方沖でM8とも推定される地震が発生、東北から房総、さらには尾張(愛知県)まで津波に襲われました。東浪見地区では6mもの津波が押し寄せたといわれます。この供養塔は津波から17年経った元禄7年(1694)に犠牲者の供養のために建てられたものです。



【住所】一宮町東浪見 4738 付近

【交通アクセス】JR東浪見駅から徒歩約17分

8 貝殻塚貝塚



町の北西部、丘陵の突端にある貝塚で、「貝殻塚」という小字も残っています。昭和12年(1937)に一部が発掘調査され、海拔約10mの緩斜面に厚さ20～30cmの貝層が形成されていることが確認されました。

年代は約4,000年前の縄文時代後期前半と推定され、出土した魚介類から外洋性貝塚の特色がみられます。残念ながら、現在遺構は見学することはできません。

【住所】一宮町一宮 4999-1 (案内看板設置場所)

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約20分

9 高藤山城址と古蹟の碑



高藤山城は上総地域で強大な勢力をもち、源頼朝の挙兵を成功付けた上総広常の居城跡と伝えられています。標高約80mの天然の要害で、山頂には文久2年(1862)に一宮藩主・加納久徴(ひさあきら)の建てた「古蹟の碑」があります。

なお、陸沢町やいすみ市などにも広常の居城跡と伝わる場所があります。

【住所】一宮町一宮 7473

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約60分

10 一宮藩台場跡



江戸時代末期、外国船が頻繁に来航する情勢の中、海防のため一宮藩主・加納久徴(ひさあきら)が造らせた台場の跡です。天保15年(1844)に5か所の砲台が造られ、それぞれ火縄式砲が1挺ずつ据えられたといわれます。現在2挺が県指定有形文化財に指定され、そのうち1挺が茂原市立美術館・郷土資料館に保管されています。

【住所】一宮町一宮 6-35

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約35分

11 芭蕉句碑



明治元年(1868)に千町村(現茂原市)の俳人・起名庵金波(きめいあんきんぱ)と一宮周辺の一門が建てた句碑です。碑の表面には松尾芭蕉の句が刻まれ、裏面には起名庵の門人たちの149句が刻まれています。

【住所】一宮町一宮 3048 (玉前神社境内)

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約8分

12 加納公紀徳之碑

最後の一宮藩主で一宮町長をつとめた加納久宜の功績を称え、生前の大正7年(1918)に建てられた石碑です。撰文は後藤新平(初代満鉄総裁ほか)、書は野村素介(貴族院議員)によるものです。観明寺境内の旧一宮町役場前に建っていましたが、昭和63年(1988)に現在地に移されました。



【住所】一宮町一宮 3404 付近

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 12 分

13 一宮城址



標高約 30m の台地上にあった山城で、城域は城山公園を中心に、玉前神社・観明寺周辺まで及んでいたといえます。築城時期・城主は不明なことが多いですが、戦国時代には一宮正木氏が、天正 18 年(1590)には鶴見甲斐守という人物が城主だったとみられます。現在遺構はほとんど残っていません。

【住所】一宮町一宮 3404 付近

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 12 分

14 水神社の大公孫樹

船頭給区にある水神社のご神木で、高さは約 25m、幹周りは約 4m の巨木で樹齢は 400 年を越えるとみられています。昭和 40 年代頃に神社の火災が起きた際、この木にも延焼したといわれていますが、今でも多くの実をつけており、船頭給区のシンボルの一つとして地域を見守り続けています。



【住所】一宮町船頭給 546

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 25 分

15 イヌマキの群生

玉前神社の境内にある大小のマキの群生で、大きいもので高さ約 20m、幹周り約 3m の巨木もあります。境内にはマキの他にケヤキやクス、イチヨウ、桜等様々な樹木が見られ、神社の森を形成しています。



【住所】一宮町一宮 3048 (玉前神社境内)

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 8 分

16 遍照寺のイヌマキ



樹高は約 8m、胸高直径は約 1mの大木で、樹齢は不明ですが、約 500 年程とみられます。

享保 18 年 (1733)、遍照寺がこの地に移ってきたときにはこのイヌマキはすでに存在していたといい、堂宇を建てる際に金銅薬師如来が出土していることとの関係性が想起されます。

【住所】一宮町東浪見 3009

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約 17 分

17 正木時通制札



永禄 7 年 (1564)、勝浦城の正木時忠 (ときただ) は突如里見氏から離反、一宮城を攻め落とし、周辺を勢力下にしました。この制札 (禁止事項等を書いた札) は時忠の子・時通が観明寺の門前に立てたもので、「狼藉 (ろうぜき)」や「喧嘩口論」を禁止するという治安維持に関する内容が書かれています。

【非公開】

18 里見義頼寄進状



天正 10 年 (1582)、領主の里見義頼から玉前神社の神主・田中氏に宛てた寄進状です。

この文書では土地 (社領) の寄進と三月祭 (古代の国司祭祀の二月祈年祭を継承したものか) の興行を命じています。この社領の寄進は、戦乱により荒廃した玉前神社が、里見氏の保護により復興することを意味すると考えられています。

【非公開】

19 豊臣秀吉禁制



天正 18 年 (1590)、豊臣秀吉の小田原北条氏攻めの際、関東各地の北条氏の支城 (地域支配の拠点) も豊臣軍によって攻められました。東上総にも豊臣軍が攻め寄せ、その際に治安維持のため観明寺に出されたのがこの禁制です。一宮地域は豊臣側についた里見氏の支配地域でしたが、北条氏との勢力の境目であったため発給されたものと考えられます。

【非公開】

せん どう きゅう わら しゅう もん にん べつ かき あげ ひかえ ちよう
20 船頭給村宗門人別書上控帳



宗門人別帳とは、江戸幕府がキリシタン禁制の政策として、各村々に作成させた戸籍簿のようなもので、各人がキリスト教徒ではないことを証明するものです。この控帳は船頭給村の私料分について嘉永7年(1854)8月に村役人が作成して知行所代官へ差し出したものです。村内全員、日蓮宗信徒であることを本興寺(現長生村)の住職が証明しています。

【非公開】

いわ ぬか だか はま かた しお はま おき ば ちよう うつし
21 岩沼高浜方塩浜置場帳写



慶長6年(1601)の検地の結果、大多喜藩に370石の不足があり、これを補うために領内沿海の村々に塩年貢が割り付けられました。これを「浜方」といい、岩沼村(現長生村)に役所が置かれ塩年貢を取り扱ったため「岩沼高」と呼ばれました。この古文書は写しではありますが、各村々の浜方が記されており、岩沼高を知るうえで貴重な資料といえます。

【非公開】

じ びき あみ ほりよう あん ぜん き かん お な まえ ちよう
22 地曳網豊漁安全祈願御名前帳



江戸時代、九十九里沿岸では地曳網漁が盛んに行われ、最盛期には網数は200余を数えたといえます。この古文書は文政5年(1826)に東浪見村から真亀村(現九十九里町)までの63の地曳網主が、大宮南宮両社(現南宮神社)へ豊漁・海上安全を祈願して署名押印したものです。

【非公開】

まつ くい つる かがみ
23 松喰鶴鏡



玉前神社に伝わる円形の和鏡で直径約19cm、縁の厚さ3mmの白銅製の鏡です。平安時代の作といわれています。鏡の名称は裏面(文様のある面)に刻まれた松の枝をくわえて飛んでいる二羽の鶴に由来しています。

「国①梅樹双雀鏡」と同様に縁に穴が2個あり、かつて神前に懸けられていたと考えられます。

【非公開】

24 蓬萊鏡



玉前神社に伝わる長方形の和鏡で、縦約 19cm、横約 13cm、縁の厚さ 3mm の白銅製の鏡です。戦国時代の作といわれ、裏面の文様には右に松、左に橘、中央には蓬萊山に遊ぶ鶴と亀があしらわれています。

「町②松喰鶴鏡」と同様に縁に穴が 2 個あり、かつて神前に懸けられていたと考えられます。

【非公開】

25 萌黄緞胴丸



平安時代末期の豪族・上総広常が源頼朝の東国泰平を祈願した願文とともに鎧を玉前神社に寄進したという故事（『吾妻鏡』）に倣い、天保 14 年（1843）に一宮藩主・加納久徴（ひさあきら）が寄進した鎧と伝わっています。

【通常非公開、端午の節句時に玉前神社にて特別公開】

26 北沢楽天の絵馬



北沢楽天は日本初の職業漫画家で、一宮川沿いに別荘を構えていました。大正元年（1912）には『一宮案内記』を刊行するなど、町との関わりが深い人物です。この絵馬は縦約 87cm、横 156cm の大きさで、大正 5 年（1916）の宮原の大水害で流された楽天の別荘の門扉の中で残った 1 枚に、楽天が水魔克服の鎮守の神を描き、南宮神社へ奉納したものです。

【非公開】

27 観明寺四脚門



町内に残る最古の建造物といわれる四脚門で、正確な建立時期は不明ですが、正面の墓股に寛文 12 年（1672）から約 30 年間一宮地域を治めた堀氏の家紋「沢潟紋」があることから、堀氏の寄進によるものではないかと考えられます。平成 25 年（2013）の解体修理に伴い、現在地に移設されました。

【住所】一宮町一宮 3316

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 9 分

28 観明寺水屋



建入母屋造り、柿葺（こけらぶき、薄い木片を重ねて敷き詰めた屋根）で、柱には登り龍と降り龍の彫刻が施されています。

平成 8 年 (1996)、全体解体修理の際に現在地へ移築し、保護のため覆屋に格納されました。

現在は覆屋ごしに見ることができます。

【住所】一宮町一宮 3316

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 9 分

29 観明寺金毘羅堂



創建当時は茅葺屋根で移築に伴い向背（こうはい、入口の屋根が張り出した部分）を増築し、瓦葺となりました。建立年代は建物内の墨書から延享 5 年 (1748) 頃と推定されます。もとは玉前神社境内にあり、明治 12 年 (1879) に現在地に移築されました。

【住所】一宮町一宮 3316

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 9 分

【毎年 1 月 10 日 初金毘羅】

30 東浪見寺本堂



寄棟造の建物で、建立年代は本堂の扁額裏に刻まれた刻印から、享保 8 年 (1723) 頃かそれ以前の建立と考えられます。東浪見寺は明治以前は通称「軍荼利堂」とよばれ、明治 2 年 (1869) に神仏分離令のため「東大社」と改称、昭和 16 年 (1941) に現在の軍荼利山東浪見寺となりました。

【住所】一宮町東浪見 3446

【交通アクセス】JR 東浪見駅から徒歩約 20 分

31 万国地球與地図



縦約 121cm、横約 211cm の大きさの天文図略説序で、享和 2 年 (1802)、薩摩天文府の石塚崔高が描いたものです。この地図は安政 5 年 (1858)、海外事情や天文歴史に関心のあった船頭給村の田中豊司が買い求め、今に伝わるものです。

【非公開】

32 釈迦涅槃図

大きさは縦約 240 cm、横約 160cm で沙羅双樹の下、釈迦の入滅(にゅうめつ、お釈迦様の死)の様子を描いたもので、頭を北向きに顔を西に向けた釈迦を取り巻き、様々な動物が嘆き悲しむ場面が描かれています。制作年代はわかっていません。



【原則非公開】

【3月15日 観明寺経堂祭で写しを公開】

33 船頭給村土地利用図



この地図は文政年間(1818～31)の作成と伝わり、船頭給村の田畑、集落、道路を色別に記載しています。宝蔵寺、水神社、高札場や一宮本郷村飛地、地曳網の納屋などが描かれています。

また、検地についても辰高入(延宝4年)、申高入(享保13年)、卯高入(享保20年)、戌高入(安永7年)が書き込まれています。

【非公開】

34 紙本着色俵薬師縁起絵

大きさは縦約 153 cm、横約 156cm で東福寺の本尊・東方薬師瑠璃光如来(通称：俵薬師)が海岸に漂着した由来を描いた図です。一宮本郷村東部の景観が鳥瞰図的に描かれ、東福寺を中心に当時の地勢や城址・寺社などの様子を知ることができます。制作年代は不明ですが、慶応2年(1866)に再表装されていることがわかっています。



【原則非公開】

【8月26日 東福寺のシマイ施餓鬼の際にご開帳】

35 銅造阿弥陀如来立像

総高約 61cm の銅造で、宮原地区の善光寺の本尊です。善光寺式三尊仏(中央に阿弥陀如来、向かって右側に観音菩薩、左側に勢至菩薩)ですが、脇侍がなく、阿弥陀如来像のみ伝わっています。鎌倉時代後期の作とみられています。



【非公開】

36 銅造地蔵菩薩坐像

観明寺本堂前の木立の中に北西向きに安置されている、高さ約 1m の地蔵菩薩像です。東栄寺、安養寺、西福寺、観明寺の 4ヶ寺によって作られました。正徳 5 年 (1715)、佐々木石見の作で享和 2 年 (1802) に再建されています。台座には寄進者名、願主等多くの名前が刻まれています。



【住所】一宮町一宮 3316 (観明寺境内)

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 9 分

37 観明寺地獄極楽欄間



仏教の六道 (りくどう) が三面に描かれており、作者は名人といわれた彫物師・島村圓鉄です。もともと享保 3 年 (1718) 建立の旧本堂にあったもので、昭和 43 年 (1968) に再建した現本堂につけられました。

【通常非公開】

38 田中家の仏壇



総ヒノキ造りで、幅約 176cm、奥行 87cm、天保 8 年 (1837)、安房国の後藤伝吉郎住兼の作といわれ、製作には 4 年かかったといわれています。正面は唐破風 (からはふ)、上部には墓股 (かえるまた) を備え、欄間には一本彫りの波と龍が彫られています。

【非公開】

39 石造庚申塔

大きさは縦約 1m、横約 44cm で建立は元禄 9 年 (1696) です。平安時代初期頃から、庚申の夜に眠ると体から出た虫が天に罪を告げて早死にする、という言い伝えがあり、その夜を集団で眠らずに過ごす「庚申講」が行われるようになりました (庚申信仰、中国の道教に由来)。15 世紀ごろから庚申信仰の広まりとともに庚申塔も造られるようになりました。



【住所】一宮町一宮 3316 (観明寺境内)

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 9 分

40 欄間彫刻・置物



「波の伊八」で有名な武志家 3 代・武志伊八郎信美の作。慶応 3 年 (1867) の製作で、ケヤキ材で「鳩に三枝の礼」「烏に反哺の考」などを題材にした図柄の三面の欄間と橋を彫った置物です。 【非公開】

41 木造十一面観音立像

大きさは約 1m、カヤ材の一木造で、目は彫眼 (ちょうがん、彫り出して眼をつくったもの)、左手で華瓶を持ち、両肩から天衣を垂らしています。平安時代末期頃の製作とみられ、町内では「県①木造軍荼利明王立像」と並ぶ古い仏像です。



【通常非公開】

42 木造不動明王坐像

大きさ約 95cm、ヒノキ材の寄木造りの仏像です。表面に彩色と漆箔 (しっばく) を施しており、胎内の墨書から製作年代は室町時代の大永 7 年 (1527)、作者は「七條大佛所 法印 康乗 康隆」とあります。「七條佛所」は運慶・快慶など慶派仏師たちが京都で構えた工房で、この仏像は中央の正統派仏師たちが作ったものと考えられます。



【通常非公開】

43 一宮城出土遺物



町指定史跡・一宮城址は昭和 58 年 (1984)、振武館 (武道場) の建設に伴い、中心部の一部が発掘調査されました。陶磁器やかかわらけ (土器)、鉄砲玉等が出土したほか庭園遺構も確認されています。年代は 16 世紀中頃の戦国時代のものとは推定されます。特徴的なものとしては県内でも出土例が少ない「耳かわらけ」(耳の形をした土器、箸置きか)、中国産の鉄釉 (てつゆう) 茶碗等があります。

44 待山遺跡出土遺物



待山遺跡は一宮町一宮字待山に所在する遺跡で、待山古墳群を包括する遺跡です。

本出土遺物は平成 27 年 (2015) から翌年にかけて、現在の一宮どろんこ保育園の建設に伴って実施された発掘調査の出土遺物です。弥生時代から古墳時代にいたる考古資料で、周囲に古墳があったことを示す埴輪片や集落跡が確認され、この地域が古墳時代にこの周辺の拠点であったことを示唆しています。

1 釣ヶ崎海岸



上総十二社祭りの祭典場。東京 2020 オリンピック競技大会のサーフィン競技の会場となる予定です。

【住所】一宮町東浪見 6966 - 1

【交通アクセス】

JR 東浪見駅から徒歩約 35 分



2 風船爆弾打ち上げ基地跡

風船爆弾は旧日本軍がアメリカ本土への攻撃のために開発したもので、和紙をコンニャク糊で張りあわせて作った直径約 10m の気球に、爆弾や焼夷弾を吊り下げて飛ばした兵器です。一宮、茨城県大津(北茨城市)、福島県勿来(いわき市)の計 3ヶ所の打ち上げ基地より、昭和 19 年 (1944)11 月から翌年にかけて、合計で約 9,000 個が打ち上げられました。そのうち 300 個弱がアメリカ本土に到達したといわれています。

一宮の打ち上げ基地は打ち上げのためのコンクリート台が数基据えられたといい、風船爆弾の資材の運搬

のために、打ち上げ基地に向かって上総一ノ宮駅から引込線(線路、現在の一宮停車線に沿う)が敷かれました。戦後基地は破壊されたため、当時の面影は残されていません。

※実際の打ち上げ基地は看板の建てられている場所の道を挟んだ海側の一帯にあったといえます。

【住所】一宮町一宮 6-35 付近(町指定史跡・一宮藩台場跡案内看板に隣接)

【交通アクセス】JR 上総一ノ宮駅から徒歩約 35 分



「東の大磯」一宮 ～別荘マップ～

明治時代中期から昭和時代初期にかけて、一宮には多くの名士の別荘が建ち並び、「東の大磯」と呼ばれ、隆盛を誇っていました。多い時には100軒以上の別荘があったといわれていますが、昭和恐慌等により徐々に衰退していきました。残念ながら建物はほとんど残っていませんが、ここではそのうち一部の著名人を紹介します。

(住所：一宮町～)

	氏名	生没年	略歴	看板設置の有無・住所
①	加藤 友三郎 かとう・ともさぶろう	1861～1923	元帥、首相、海軍大臣ほか	○ 新地 895-3 地先
②	斎藤 実 さいとう・まこと	1858～1936	首相、海軍大臣ほか	○ 新地 897-8 地先
③	三井 八郎次郎 みつい・はちろうじろう	1849～1919	三井物産社長ほか	○ 一宮 389 付近
④	上原 勇作 うえはら・ゆうさく	1856～1933	元帥、陸軍大臣ほか	○ 一宮 199-3 付近
⑤	平沼 騏一郎 ひらぬま・きいちろう	1867～1952	首相、枢密院議長ほか	○ 一宮 9387 付近
⑥	北沢 楽天 きたざわ・らくてん	1876～1955	日本初の職業漫画家	○ 白山 11 地先
⑦	高石 真五郎 たかいし・しんごろう	1878～1967	毎日新聞主幹、IOC 委員ほか	○ 一宮 4493 付近
⑧	志田 鉦太郎 しだ・こうたろう	1868～1951	法学者、明治大学総長ほか	○ 東浪見 5322-1
⑨	上田 広 うえだ・ひろし	1905～1966	小説家、『一宮町史』編纂委員長	○ 一宮 8132-3 付近
⑩	白鳥 省吾 しろとり・せいご	1890～1973	詩人	○ 東浪見 3009
⑪	中村 進午 なかむら・しんご	1870～1939	国際法学者、学習院大教授ほか	×
⑫	金田 鬼一 かねだ・きいち	1886～1963	文学者、『グリム童話』翻訳者	×
⑬	大関 増輝 おおぜき・ますてる	1879～1964	子爵、下野黒羽藩藩主家	×
⑭	佃 一誠 つくだ・かずしげ	1870～1921	大蔵省印刷局長ほか	×
⑮	馬淵 鋭太郎 まぶち・えいたろう	1867～1943	京都府知事、京都市長ほか	×
⑯	仁礼 景範 にれ・かげのり	1831～1900	子爵、海軍大臣ほか	×
⑰	税所 篤文 さいしょ・あつふみ	1855～1910	陸軍中将、旅順要塞司令官ほか	×
⑱	大河内 正敏 おおこうち・まさとし	1878～1952	子爵、理化学研究所所長ほか	×
⑲	栗津 清亮 あわつ・きよすけ	1871～1959	保険学者、日本傷害火災海上社長	×
⑳	伊達 邦宗 だて・くにむね	1870～1923	伯爵、陸奥仙台藩藩主家	×
㉑	俵 国一 たわら・くにいち	1872～1958	工学博士、東大教授ほか	×
㉒	佐竹 義春 さたけ・よしはる	1890～1944	侯爵、出羽久保田藩藩主家	×
㉓	清野 長太郎 せいの・ちやうたろう	1869～1926	内務官僚、復興局長官ほか	×
㉔	川島 忠之助 かわしま・ちゅうのすけ	1853～1938	翻訳家、銀行家	×
㉕	加納 久宜 かのう・ひさよし	1848～1919	元一宮藩藩主、一宮町長ほか	× 加納久宜邸はこの他に海岸(一宮館隣)などにもあった。
	加納 久朗 かのう・ひさあきら	1886～1963	横浜正金銀行取締役、千葉県知事ほか	
	トーマス・ベイティ	1869～1954	国際法学者、戦前日本の法律顧問	

名士の別荘マップ



④ 上原勇作別荘地跡

至大原
・勝浦

一宮町の略年表

和暦	西暦	できごと	関係する文化財
	約 4,000年前	貝殻塚貝塚が造られる。	町⑧貝殻塚貝塚
	～古墳時代頃	待山遺跡・古墳群が造られる。	町④待山遺跡出土遺物
大同 2 年	807	上総十二社祭りが始まったとされる。	県⑥上総十二社祭り
		この頃までに、玉前神社が成立。	
寿永 2 年	1183	上総広常、源頼朝により謀殺される。	
永禄 7 年	1564	勝浦城の正木時忠が安房国の戦国大名・里見氏から離反し、一宮城を攻め落とす。玉前神社も類焼する。	町⑰正木時通制札
天正 8 年	1580	安房国の里見義頼と大多喜城の正木憲時が対立、憲時が挙兵する(正木憲時の乱)。一宮城の正木氏も憲時に同調し、翌年の憲時の滅亡とともに滅亡したとみられる。	
天正 10 年	1582	里見義頼、玉前神社に宮地を寄進。	町⑱里見義頼寄進状
天正 18 年	1590	豊臣秀吉による相模国(神奈川県)小田原城の北条氏攻め。上総地域に豊臣氏家臣・浅野長政、木村一等が攻め寄せ。里見氏方の一宮城主として鶴見甲斐守がみえる。	町⑲豊臣秀吉禁制
		秀吉による宇都宮仕置の結果、里見氏から上総国が没収され、関東に入国した徳川氏に与えられる。一宮地域は大多喜城に入った本多家の領地に組みこまれたとみられる。	
元和 3 年	1617	脇坂安元、信濃国(長野県)飯田藩 5万5,000石に加増転封。うち5,000石は上総国一宮地域に与えられる。	
寛文 12 年	1672	脇坂氏が播磨国(兵庫県)龍野へ転封。一宮地域は旗本・堀親興が領主となる。	
延宝 5 年	1677	延宝の大地震、大津波。	町⑦延宝の津波供養塔
貞享 4 年	1687	玉前神社社殿(現在の社殿)が造営される。	県③玉前神社社殿附棟札
元禄 16 年	1703	元禄の大地震・大津波。	
宝永 7 年	1710	玉前神社に神楽殿が造営され、神楽が奉納される。	県④玉前神社神楽
享保 11 年	1726	加納久通、上総国に 8,000 石(一宮本郷村等含む)を与えられ 1 万石の大名となる(伊勢八田藩の成立)。	
文政 9 年	1826	加納久備、陣屋を一宮本郷村に移し、一宮藩が成立。	
天保 14 年	1843	一宮藩主・加納久徴、平安時代の上総広常が玉前神社に鎧を奉納したという故事に倣い、玉前神社に鎧を奉納する。	町⑳萌黄緞胴丸
天保 15 年	1844	一宮藩主・加納久徴、灌漑用の溜池として、洞庭湖を完成させる。	町⑥洞庭湖記念碑
		一宮海岸に台場が建設され、砲台が設置される。	町⑩一宮藩台場跡
文久 2 年	1862	一宮藩主・加納久徴、上総広常をしのび高藤山に古蹟の碑を建立。	町⑨高藤山城址と古蹟之碑
慶応 3 年	1867	大政奉還。 加納久宜、一宮藩主となる。	
明治 2 年	1869	版籍奉還。一宮藩主・加納久宜、一宮藩知事となる。	
明治 4 年	1871	玉前神社、国幣中社に列される。 廃藩置県。一宮県成立(7月)。 県の統合により、一宮県消滅(11月)。木更津県となる。	
明治 12 年	1879	一宮本郷村、戸長役場を観明寺境内に設置。	
明治 21 年	1888	東浪見村と綱田村が合併し、東浪見村となる。	
明治 23 年	1890	一宮本郷村と新笠村が合併し、一宮町誕生。町制施行。	
明治 24 年	1891	一宮区裁判所開設。長柄郡と上埴生郡が合併し、長生郡となる。	
明治 26 年	1893	綱田区で梨栽培が始まる。	
明治 30 年	1897	房総鉄道、大網～一ノ宮駅間開通。	
明治 32 年	1899	房総鉄道、一ノ宮～大原駅間開通。	
明治 42 年	1909	一宮に電話開通。	
明治 45 年	1912	元一宮藩主・加納久宜が一宮町長に就任。	
大正 3 年	1914	芥川龍之介、1 度目の一宮来訪。初めて電灯がつく。	
大正 5 年	1916	宮原の大洪水。 芥川龍之介、2 度目の一宮来訪。	町⑳北沢楽天の絵馬 国登①芥川荘
大正 7 年	1918	加納久宜・元町長の業績を称え、顕彰碑が建立される(翌年死去)。	町⑫加納公紀徳之碑
大正 11 年	1922	町民有志の手により、城山に加納久宜・元町長の墓が建立される。	町⑤加納久宜公の墓
昭和 19 年	1944	一宮海岸より風船爆弾が打ち上げられる(11月～翌年3月)	
昭和 20 年	1945	一宮町事件(ホックレー事件)。	
昭和 28 年	1953	一宮町と東浪見村が合併、一宮町となる。	
昭和 29 年	1954	船頭給区が一松村から一宮町へ分村編入。	
昭和 30 年	1955	新地区が一松村、宮原区が八積村から分村編入。	
昭和 39 年	1964	『一宮町史』刊行。	
昭和 42 年	1967	一宮町役場が現在地(一宮 2457)へ移転される。	
昭和 62 年	1987	千葉県東方沖地震。	
平成 23 年	2011	東日本大震災。	
平成 26 年	2014	一宮町役場新庁舎が完成する。	
平成 28 年	2016	東京 2020 オリンピック競技大会サーフィン競技会場に一宮町釣ヶ崎海岸が決定。	
令和 2 年	2020	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大のため、延期となる。 JR 上総一ノ宮駅東口開設。	
令和 3 年	2021	東京 2020 オリンピック競技大会サーフィン競技が、一宮町釣ヶ崎海岸で開催される予定。	

一宮町の指定文化財

編集・発行 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2461
一宮町教育委員会 教育課
TEL:0475-42-1416

印刷 株式会社 豊文堂

発行 令和3年(2021)3月